

2020 年 6 月 26 日

The Emerging Markets Weekly

新興国通貨の大半は小幅な値動き

新興国市場:先週末の 19 日の新興国通貨は、大半は小幅な動きとなった。ただ、前日に売られた BRL、ZAR と MXN には買い戻しの動きがみられた。また、RUB は NY 時間に原油価格が上昇したことが支援材料となった。週初、22 日もアジア時間は動意の薄い展開となった。NY 時間に入り、ドルが軟化し、コモディティ価格が堅調推移したことを受け、BRL は前日比+1.1%上昇、また RUB と MXN も上昇した。23 日、アジア時間の新興国通貨は不安定な動き。ナバロ米大統領補佐官が「中国との通商合意は終わった」と発言したとの報道を背景にリスクオフの動きとなった。しかし、ナバロ氏が報道機関を通じ、事実上自身の発言を撤回すると、新興国通貨は落ち着きを取り戻した。その後、欧州の良好な経済指標の結果を受けユーロが強含み、ドルは軟化したことにより新興国通貨は堅調に推移。BRL は 17 日にブラジル中央銀行 (BCB) が開催した金融政策会合の議事要旨で、利下げに対して慎重な姿勢が示されていたことが明らかとなり、前日比+1.9%上昇した。24 日のアジア時間は前日からのドル安を受け、新興国通貨は堅調に推移した。しかし、NY 時間に入ると、IMF が世界経済見通しの下方修正をしたことを受けて、安全資産への逃避が広がった。BRL はブラジルでの新型コロナウイルスの感染が引き続き拡大していることも重しとなり、前日比▲3.6%下落した。そのほか、MXN や ZAR が値を下げた。25 日、新興国通貨は総じて小幅な値動きとなった。ZAR は前日の予算案の発表を受け小幅に下落していたが反発をみせ、前日比+1.9%値を伸ばした。

アジア:タイ中央銀行 (BOT) は 24 日に金融政策委員会 (MPC) を開催し、政策金利を 0.50% に据え置くことを決定した。新型コロナウイルスの影響で輸出と観光が想定より悪化すると見て、今年の経済成長予測を下方修正した。フィリピン中央銀行 (BSP) は 25 日に金融政策会合を開催し、過去最低水準にあった政策金利を 50bp 引き下げ 2.25% にすることを決定した。BSP は新型コロナウイルスで打撃を受けた経済を下支えする姿勢を鮮明にした。

中東欧・アフリカ:ロシア中央銀行 (CBR) は 19 日に金融政策会合を開催し、政策金利を 100bp 引き下げ、過去最低の 4.50% にすることを決定した。CBR はインフレ率の低下圧力が強まったことや景気減速を背景に追加利下げの必要性を検討すると表明している。トルコ中央銀行 (CBRT) は 25 日に金融政策会合を開催し政策金利を 8.25% に据え置くことを決定した。新型コロナウイルスのパンデミックに伴いインフレ圧力が高まっていることを据え置き理由としている。

ラテンアメリカ:メキシコ中央銀行 (Banxico) は 25 日に金融政策会合を開催し、政策金利を 50bp 引き下げ 5.00% にすることを決定した。利下げは 9 会合連続となった。Banxico は経済成長とインフレ率の安定性がリスクにさられているとして、利下げに踏み切ったとしている。

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(ロシア)

中銀は 100bp の利下げを実施、追加利下げも示唆

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

ロシア中央銀行(CBR)は6月19日、金融政策会合を開催し、政策金利(1週間物レポ金利)を従来の5.50%から4.50%へと100bp引き下げることを選定した(図表1)。政策金利の水準としては過去最低の水準となる。

国内外で新型コロナウイルスに伴う行動規制が長期化したことでインフレ率の低下圧力が想定以上に強まっていることに対応する。前回会合以降、原油価格の持ち直しもあり、RUBが3月の下落幅を概ね取り戻したことも追加利下げの判断を後押しした可能性がある(図表2)。

追加利下げの決定は概ね市場の予想通り。ナビウリナ総裁は前回会合(4月24日)以降、100bpの追加利下げも検討対象であると繰り返し発言していた。

声明文からは、先行きの不透明感がうかがえる。2020年の実質GDP成長率見通しは前年比▲4~▲6%と、前回4月会合の声明文の内容が引き継がれた。ただ、4~6月期に想定以上の落ち込みが生じる可能性があるとしている。また、2021年と2022年については成長(recovery growth)が続くとされたのみだ。前回の「2021年は同+2.8~4.8%、2022年は同+1.5~3.5%」との見通しから変化がないのか判然としない。

実際のところ、ロシアでも6月以降、行動規制の緩和が進みつつあるとはいえ、経済活動の正常化に程遠い状況だ。金融緩和を進めるCBRは、政府による追加の財政支援の必要性を訴えている。海外では感染第2波への懸念が燃える。エネルギー需要の回復にも時間を要しよう。ロシア経済への逆風は残る。

インフレ率見通しにはCBRの下振れ懸念がよりうかがえる。ナビウリナ総裁は会見でインフレリスクは下方向(ディスインフレ)にあると明言。今回の声明文では、2020年は現状見通しで前年比+3.1%とされたが、前回は同+3.1~4.9%であった。2021年についても、今回はインフレ目標(前年比+4%)から下方乖離が顕著になるリスクに言及。前回は「4%前後で安定する」とされていた。

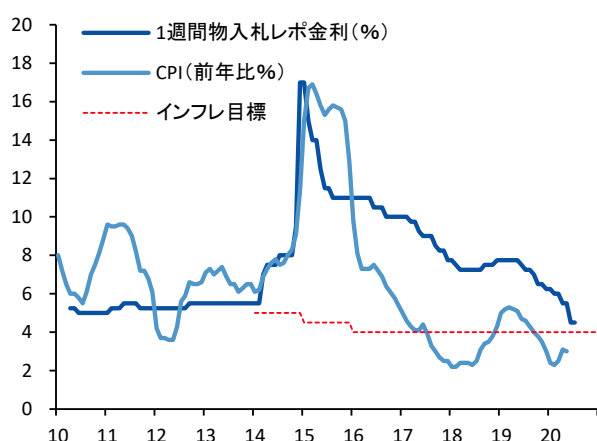
その上で、CBRは以下の記述を声明文に追加した。政策判断におけるインフレ安定化の重要性をあらためて確認した格好だ。ナビウリナ総裁も会見で究極の目標(ultimate goal)と位置づけている。

The key rate decision taken by the Bank of Russia is aimed at limiting this risk and maintaining inflation close to 4%.

そして、声明文(英訳版)には以下の記述が残された。下線部が前回4月会合(holds open the prospect)と比較してやや慎重な書きぶりになったものの、今後の会合における追加利下げの可能性を示唆するものといえる。なお、次回会合は7月24日に開催される予定である。

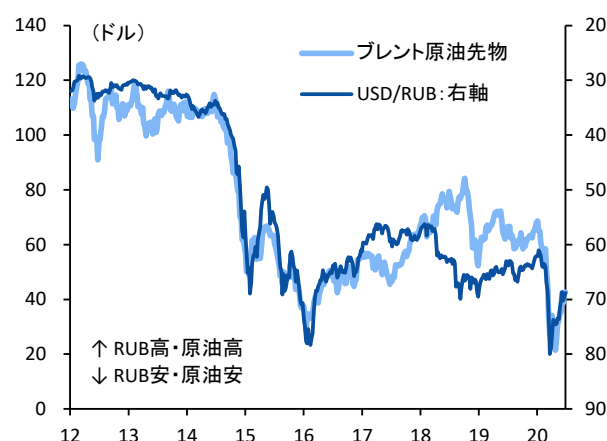
If the situation develops in line with the baseline forecast, the Bank of Russia will consider the necessity of further key rate reduction at its upcoming meetings.

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: ロシア中央銀行、国家統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 原油価格と USD/RUB



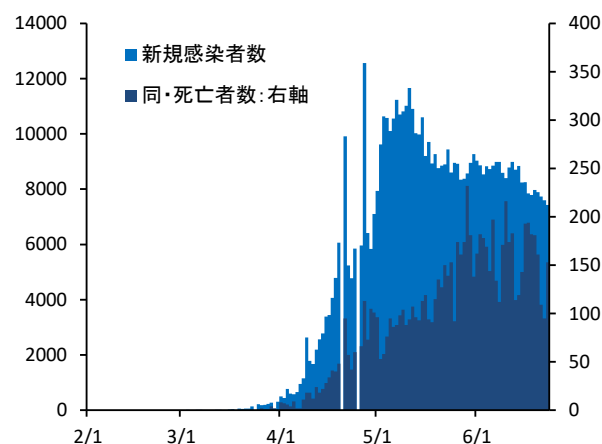
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: ロシア中銀の中期経済見通し(4月公表時点)

	2019年	2020年	2021年
【経済指標(前年比、%)】			
実質GDP成長率	1.3	▲4.0~▲6.0	2.8~4.8
最終消費支出	2.4	▲0.6~▲2.6	2.3~4.3
総資本形成	3.8	▲7.0~▲13.0	2.3~6.3
輸出	▲2.3	▲10.6~▲14.6	3.7~7.7
輸入	3.4	▲5.6~▲11.6	4.9~8.9
インフレ率	4.5	3.1~3.9	4.0
【原油価格(ドル/バレル)】			
ウラル原油	64	27	35
【国際収支(10億ドル)】			
経常収支	65	▲35	▲18
貿易収支	164	43	66
サービス収支	▲36	▲34	▲39
外貨準備	66	▲47	▲20

出所: ロシア中央銀行、みずほ銀行

図表 4: 新型コロナウイルスの新たな感染者数と死亡者数



(注) 2020年6月23日時点

出所: WHO、CEIC、みずほ銀行

市場概観(インドネシア)

6 月金融政策会合～今年 3 回目の利下げを実施

市場営業部

堀 堯大

03-3242-7065

takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア中央銀行(BI)は 6 月 18 日に開催した金融政策会合で、政策金利の 7 日物リバースレポレートに従来の 4.50%から 4.25%へ引き下げることを決定した(図表 1)。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も 5.00%と 3.50%へそれぞれ引き下げ、コリドーを 1.50%pts に維持した。同国の利下げは今年 3 度目で、利下げ幅は年初来累計で 75bps となった。なお、ブルームバーグの事前予想では 25bps の利下げ予想が大方を占めており、22 人中 15 人が利下げを見込んでいた。

声明文では、新型コロナウイルスの影響で停滞が続く経済の安定化と回復への下支えとすべく、追加緩和に踏み切ったと述べた。加えて、前回(5 月)会合時と同様に政府一体での政策運営によって、新型コロナウイルスによる景気減速に歯止めをかけるべく、あらゆる措置を緩和的とする方針を示した。そのほか BI は中銀として自国の市場機能の維持と金融・為替市場において十分な流動性を確保するための運営を続けていく点を表明した。

また、ペリーBI 総裁は会見にて、現状の低インフレ、GDP 伸び率の押し上げの必要性、縮小しつつある経常赤字に言及し、今後も利下げ余地を残していることを表明した。特に GDP 成長率に関しては、20 年の予想をこれまでの前年比+2.3%から同+0.9～1.0%へ下方修正した。また、20 年 4～6 月期に景気の底を迎え、それ以降は回復に向かう見通しを示し、21 年には成長率が前年比+5.0～6.0%の水準となるとの見方を示した。

前回会合以降、金融市場が引き続き安定していた点は BI が再度利下げする環境を整えた。3 月以降、金融市場で急速なリスクオフムードが高まる中、政府が新型コロナウイルス対策で大規模な財政支出を実施し、財政赤字の拡大が続いた。その結果、インドネシア資産を手放す動きが強まり、株安と国債利回りの上昇が進んで、IDR は急速に下落した(図表 2～4)。その後、国内金融市場の安定化のために BI は流通市場での国債購入、いわゆる量的緩和に踏み切った。幸い金融市場の混乱によるリスクオフムードが長続きせず、BI の施策も奏功し、資産価格および IDR も徐々に値を戻して、今回の声明文内で言及されている通り、直近の対外資金のネットフローがプラスに回復している。

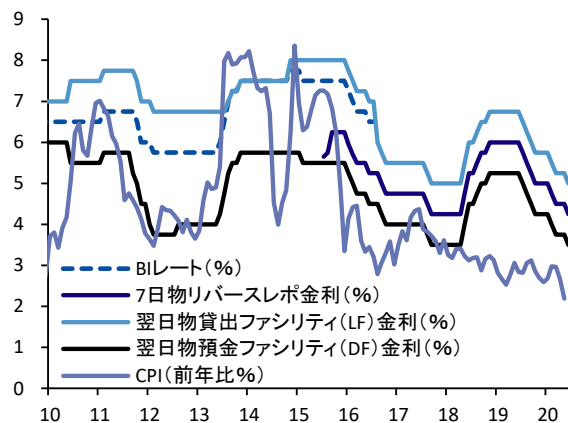
IDR の動向は図表 2 の通り、新型コロナウイルスでの混乱が徐々に収束しつつある状況にある。今後に関しては、世界的に 4～6 月期に景気の底を見込む地域が多く、6 月までの経済指標の結果は為替動向を大きく左右しないと考える。むしろ、先述の対外資金のネットフローの推移の方が IDR の相場動向に大きな影響を与えることが見込まれる。

インドネシアならではの通貨下落リスクを整理すると、域内諸国と比較して新型コロナウイルスの感染者数の増加が続く点、財政赤字の水準が国の上限の対 GDP 比 3%の倍の水準まで増大する見込みである点が挙げられる。よって、国内の新型コロナウイルス感染動向や財政赤字の水準に関してはより注視すべきと考える。

BI の政策動向にも注目が集まる。BI は上述した量的緩和のほかスポット為替、国内

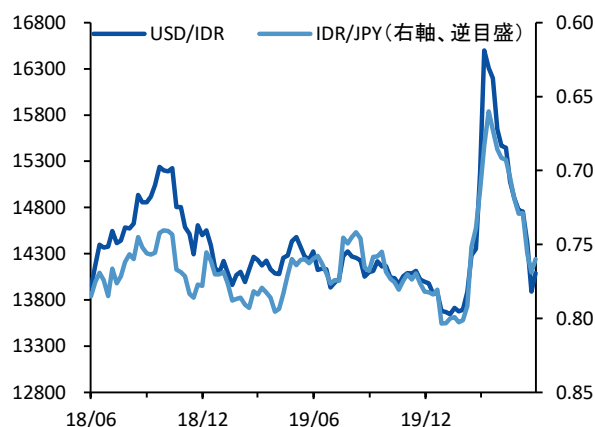
ノンデリバティブフォワード(NDF)市場に介入したことを明らかにしており、自国の市場機能の維持・安定化を経済の建て直しと同列以上に重要視している印象がある。追加の利下げについては、インドネシアを取り巻く為替・金融市場動向に鑑みた上で今回と同様に慎重に判断されることになるだろう。BIは依然IDRを割安と判断しており、今後も必要に応じて市場へ介入することで、IDR安をけん制するスタンスとなることが想定される。

図表 1: 政策金利とインフレ率



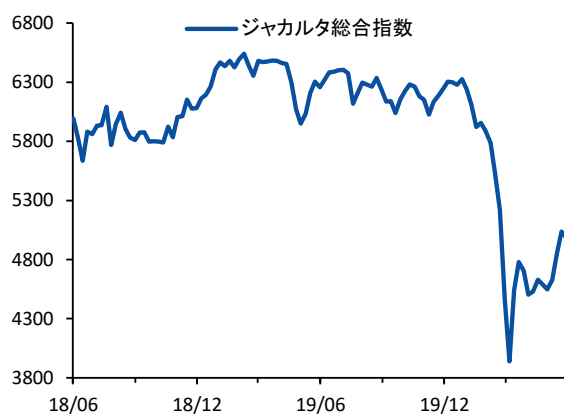
出所: インドネシア中央銀行、インドネシア中央統計局、CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: IDR 為替動向(対ドル、対円 6 月 18 日まで)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: ジャカルタ総合指数(6 月 18 日まで)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: インドネシア 10 年債利回りの推移(6 月 18 日まで)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

市場概観(タイ)

6 月金融政策委員会～政策金利は 0.50%で現状維持

市場営業部
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

タイ中央銀行(BOT)は 6 月 24 日に金融政策委員会(MPC)を開催し、政策金利を 0.50%に据え置いた(図表 1)。MPC では 7 人の委員が全会一致で政策金利の現状維持に賛成した。なお、ブルームバーグの事前予想でも現状維持が優勢であり 26 人中 22 人が現状維持としていた。BOT は今年に入り 3 度の利下げ(計 75bps)を実施していた。

タイ経済について声明文では、前回 5 月会合時に続き、世界的に新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化し、製造業をはじめとする輸出産業や観光業を中心に予想以上の悪影響を受けている点に言及した。また、BOT は、内需や企業の投資活動にも減速が見られた点を指摘し、今後の国内の雇用環境の悪化にも懸念を示した。今回はこれに加え、20 年、21 年の景気見通しを更新している(図表 2)。これによれば、20 年の経済成長率は 3 月時点から前年比▲5.3%から▲8.1%に下方修正されているほか、消費者物価上昇率(CPI)に関しても前年比▲1.7%とマイナスに転落し、BOT の目標レンジ(+1.0~+3.0%)を大幅に下回る見通しが示されている。一方、21 年の経済成長に関しては上方修正されており、CPI に関してもプラスに回復するとしている。

今後に関しても、声明文では、既に決定済みの財政・金融政策によって、企業や家計の債務負担を和らげ、資金供給が円滑化されている点に言及した。必要に応じて適切な金融政策を用いることで景気悪化の影響を軽減させていく姿勢も強調し、従来からのスタンスを維持した格好となった。

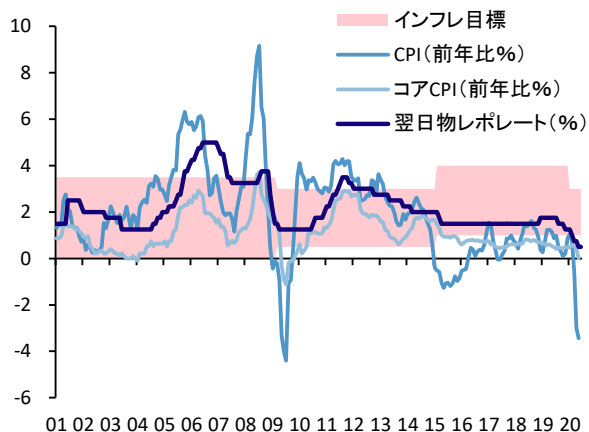
THB は、前回 5 月の会合から引き続き堅調な値動きを見せている(図表 3)。新型コロナウイルスによるロックダウンが解除されて、世界で経済活動が再開された中、金融市場でのリスクオフムードが徐々に薄れていった点が大きな要因だ。特に、新型コロナウイルスの感染拡大が比較的落ち着いている ASEAN 通貨に対しては、概ねドル安傾向が続く。タイにおいても、国内の経済は段階的に再開され、7 月にはビジネス目的をはじめ、一部外国人渡航者の入国を容認することとなっている。この点も THB の値動きをサポートするものと考えられる。

その一方、図表 2 によれば、経常黒字が前年比 4 割程度まで縮小する見込みで、更なる下方修正の可能性を警戒しておきたい。その理由として、第一に BOT は今回、自国通貨高により貿易収支改善が遅れる可能性を指摘している。5 月の輸出(通関ベース)は前年比▲22.5%と予想以上の悪化をみせ、09 年 7 月以降最大の落ち込みを記録した。タイは域内最大の経常黒字国で、自国通貨高に動いて相対的に輸出競争力が弱まりやすい。20 年の輸出は前年比▲10.3%の減速と予想しているが、減速が深刻化する可能性も懸念される。第二に、観光や物流の取引を示すサービス収支に関しても、来訪客数が前年比約 2 割の水準となる見込みだが(図表 2)、海外で新型コロナウイルスの感染第二波の懸念が高まれば来訪者の落ち込みが更に深刻化する可能性もある。

したがって、BOT の今後の政策運営として、国内景気回復の動向を注視するとともに、THB 高が継続した場合には、THB 高をけん制するような動きも想定される。しか

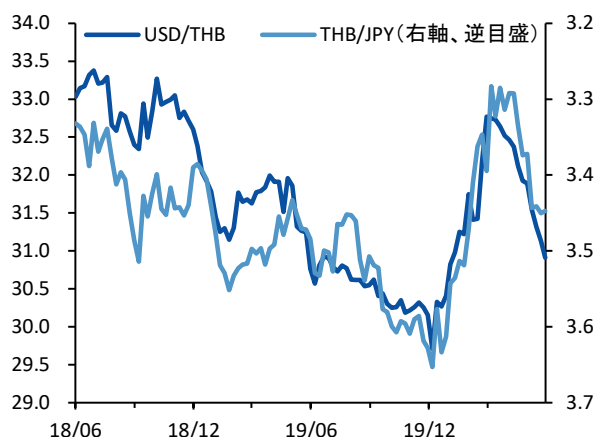
し現状、政策金利はゼロに近づいており、図表 2、4 に示されるように低成長・低インフレが継続する見込みながらも、追加利下げの余地は限定的となっている。かかる中、域内ではインドネシア中銀が国債を買い入れる量的緩和に踏み込んだ事例があるように、タイにおいても今後、BOT が非伝統的な緩和手法に着手していくのかといった点も大きなトピックとなっていくだろう。

図表 1: タイの政策金利とインフレ率



出所: タイ中央銀行、タイ商務省、CEIC、みずほ銀行

図表 3: THB の為替動向 (2018 年 6 月以降)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 2020 年、2021 年の景気見通し

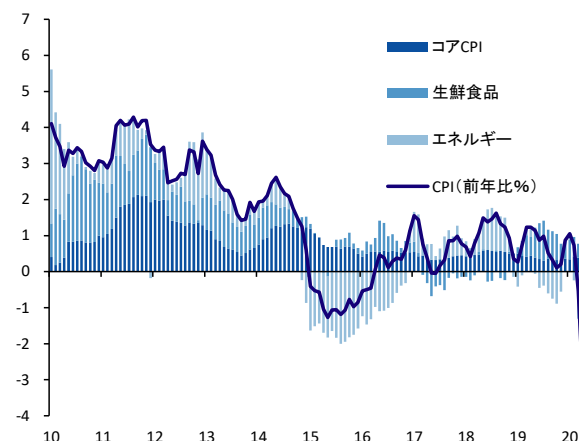
(% YoY)	2019*	2020 ^E		2021 ^E	
		Mar 20	Jun 20	Mar 20	Jun 20
GDP Growth	2.4	-5.3	-8.1	3.0	5.0
- Private Consumption	4.5	-1.5	-3.6	2.1	2.5
- Private Investment	2.8	-4.3	-13.0	2.2	5.6
- Government Consumption	1.4	2.6	3.8	2.2	3.1
- Public Investment	0.2	5.8	5.8	8.1	14.1
- Exports of Goods and Services	-2.6	-16.4	-22.7	5.0	8.4
- Imports of Goods and Services	-4.4	-11.6	-18.9	4.3	7.3
Current Account (Billion USD)	37.9	19.4	15.5	19.2	20.2
- Value of Merchandise Exports	-3.2	-8.8	-10.3	0.2	4.5
- Value of Merchandise Imports	-5.4	-15.0	-16.2	-0.4	4.1
Headline Inflation	0.7	-1.0	-1.7	0.3	0.9
Core Inflation	0.5	-0.1	0.0	0.1	0.1
Assumptions					
- Number of Tourists (Million)	39.8	15.0	8.0	20.0	16.2
- Dubai Oil Price (USD/Barrel)	63.5	35.0	35.1	34.0	37.0

Note: * Outturn, ^E Estimation

** The 2019 outturn is during revision process and will be released on 30 Jun 20

出所: タイ中央銀行

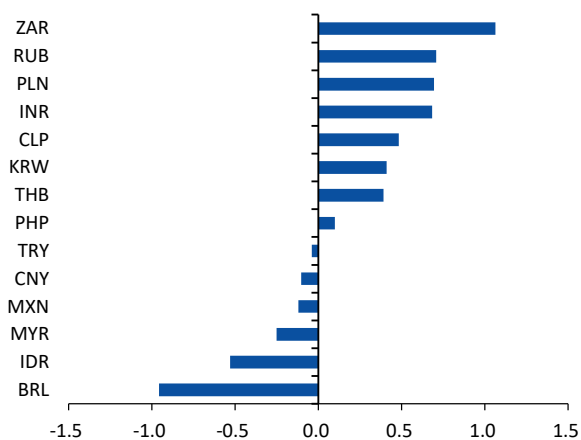
図表 4: 消費者物価上昇率



出所: タイ商務省、CEIC、みずほ銀行

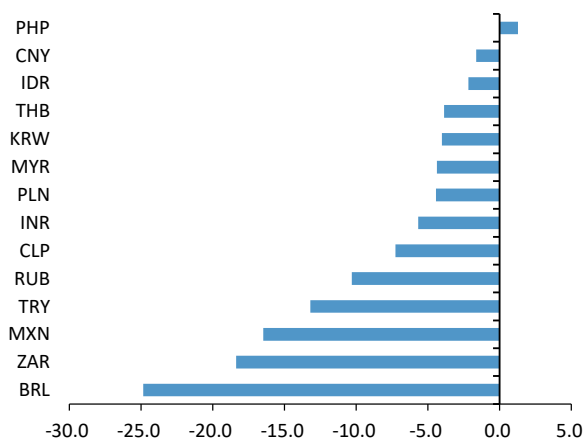
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



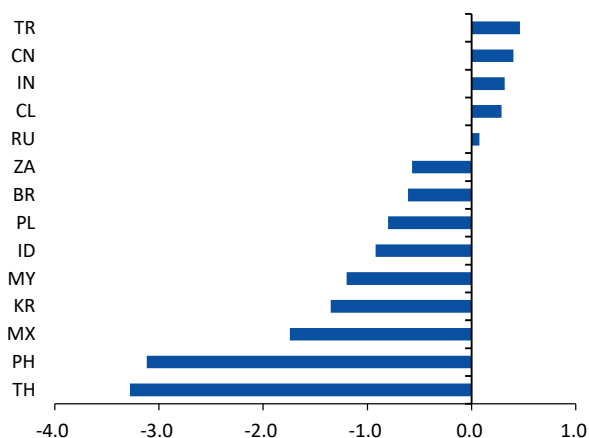
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



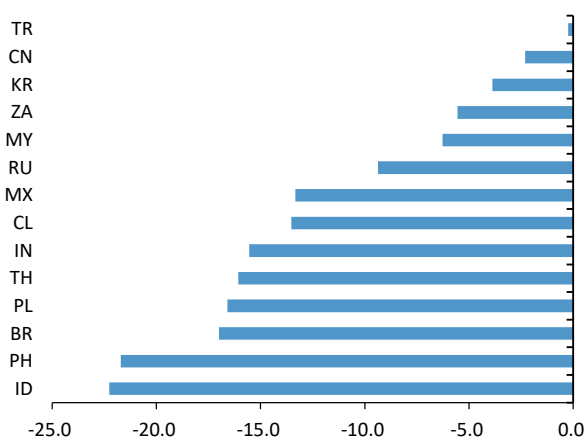
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



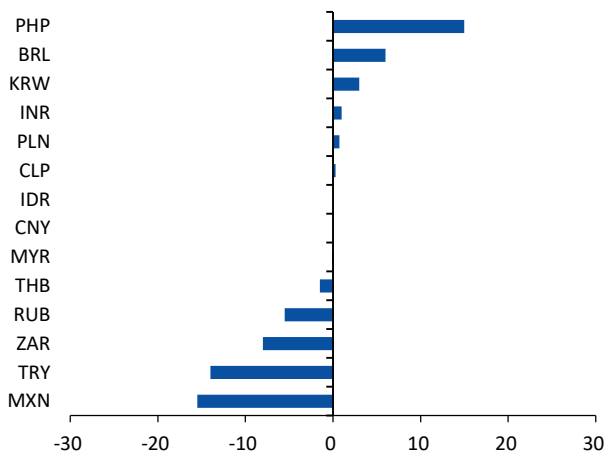
出所: ブルームバーク、みずほ銀行, ※中国は休場

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

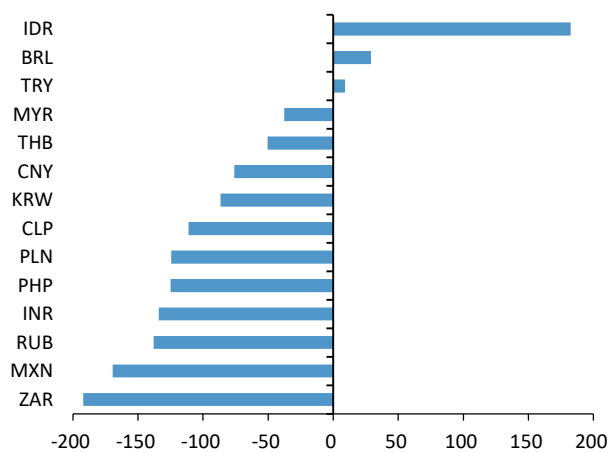
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりインドネシアの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

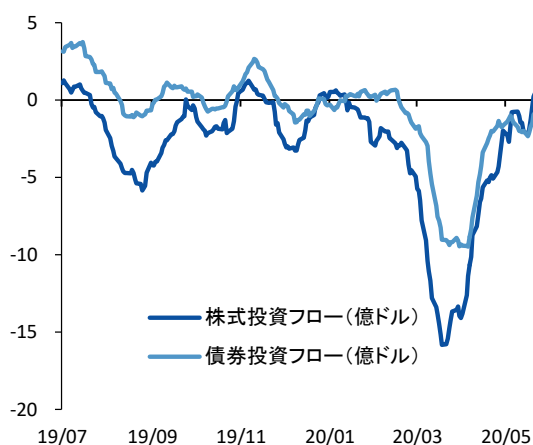
5年物スワップレート年初来変化(bp)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

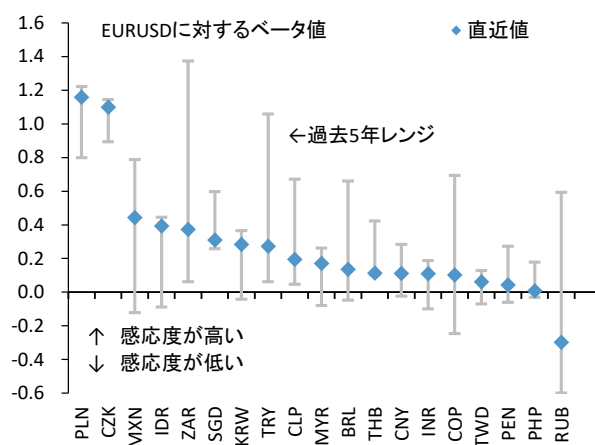
チャート集

主要新興国への証券投資フロー(4週間移動平均)



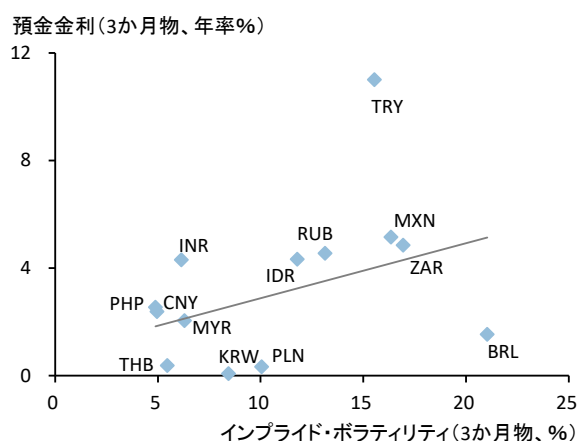
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



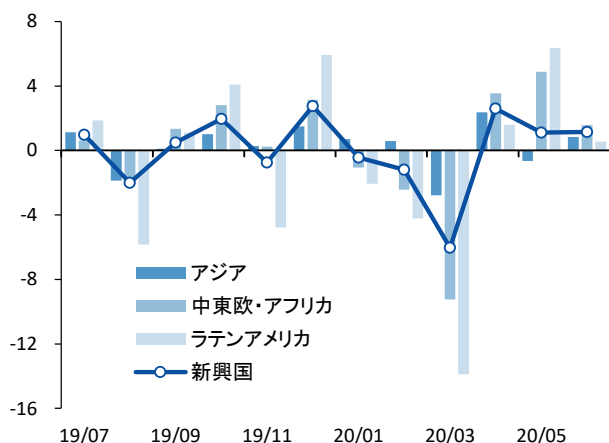
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



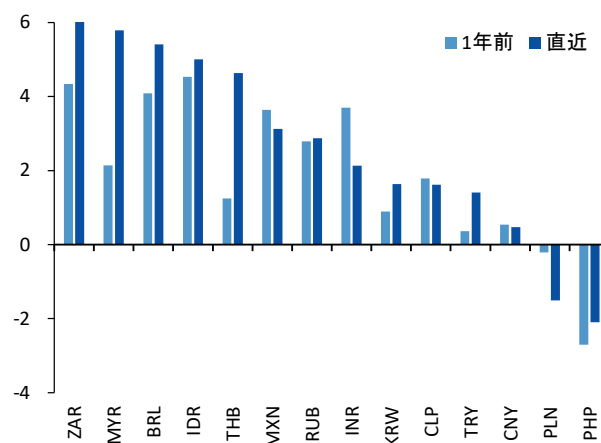
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率, %)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
6月23日 (火)	韓国	PPI 前年比	--	-1.7%	-1.5%	-1.7%
23日 (火)	シンガポール	CPI(前年比)	-0.9%	-0.8%	-0.7%	--
24日 (水)	タイ	貿易収支(通関ベース)	\$2736m	\$2695m	\$2462m	--
24日 (水)	マレーシア	CPI(前年比)	-2.8%	-2.9%	-2.9%	--
24日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	0.50%	0.50%	0.50%	--
25日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	2.75%	2.25%	2.75%	--
24-7月3日	フィリピン	海外送金(前年比)	-10.0%	--	-4.7%	--
24-7月3日	フィリピン	総合国際収支	--	--	\$1666m	--
26日 (金)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	7.7%	--	13.0%	--
30日 (火)	韓国	景況判断(製造業)	--	--	49	--
30日 (火)	韓国	鉱工業生産(前年比)	-2.5%	--	-4.5%	--
30日 (火)	中国	製造業PMI	50.4	--	50.6	--
30日 (火)	中国	非製造業PMI	53.7	--	53.6	--
30日 (火)	タイ	国際収支:経常収支	\$431m	--	-\$654m	--
7月1日 (水)	韓国	貿易収支	\$2523m	--	\$436m	\$446m
1日 (水)	中国	Caixin中国製造業PMI	50.6	--	50.7	--
1日 (水)	インドネシア	CPI(前年比)	--	--	2.2%	--
2日 (木)	韓国	CPI(前年比)	-0.2%	--	-0.3%	--
3日 (金)	タイ	CPI(前年比)	--	--	-3.4%	--
3日 (金)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	-23.8%	--
3日 (金)	シンガポール	小売売上高(前年比)	--	--	-40.5%	--
中東欧・アフリカ						
6月24日 (水)	トルコ	設備稼働率	--	66.0%	62.6%	--
24日 (水)	南ア	CPI(前年比)	3.0%	3.0%	4.1%	--
24日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	1.9%	2.7%	2.0%	1.9%
25日 (木)	南ア	PPI 前年比	1.9%	1.2%	3.3%	--
25日 (木)	トルコ	1週間レホレート	8.00%	8.25%	8.25%	--
30日 (火)	トルコ	貿易収支	--	--	-4.56b	--
30日 (火)	南ア	GDP(前年比)	--	--	-0.5%	--
30日 (火)	南ア	貿易収支(ラント)	--	--	-35.0b	--
30日 (火)	ロシア	経常収支	--	--	21700m	--
7月2日 (木)	南ア	経常収支	--	--	-68b	--
2-3日	ロシア	GDP(前年比)	--	--	1.6%	--
3日 (金)	トルコ	CPI(前年比)	--	--	11.4%	--
3日 (金)	トルコ	PPI 前年比	--	--	5.5%	--
ラテンアメリカ						
6月24日 (水)	ブラジル	経常収支	\$1900m	\$1326m	\$3840m	--
24日 (水)	ブラジル	海外直接投資	\$1500m	\$2552m	\$234m	--
25日 (木)	メキシコ	小売売上高(前年比)	-20.4%	-23.8%	-1.3%	--
25日 (木)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	-0.1%	0.0%	-0.6%	--
25日 (金)	メキシコ	オーバーナイトレート	5.00%	5.00%	5.50%	--
26日 (金)	メキシコ	貿易収支	1327.1m	--	-3087.4m	--
29日 (月)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前年比)	7.2%	--	6.5%	--
30日 (火)	ブラジル	純債務対GDP比	--	--	52.7%	--
7月1日 (木)	ブラジル	ブラジル 貿易収支(月次)	--	--	\$4548m	--
2日 (木)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	--	--	-27.2%	--

注: 2020 年 6 月 26 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2020年 1～5月（実績）	SPOT	2020年 6月	9月	12月	2021年 3月	6月
対ドル								
エマーGINGアジア								
中国人民元	(CNY)	6.8405 ～ 7.1777	7.0782	7.10	7.05	7.05	7.00	6.95
香港ドル	(HKD)	7.7500 ～ 7.7989	7.7505	7.76	7.78	7.80	7.81	7.82
インドルピー	(INR)	70.733 ～ 76.916	75.666	76.2	74.5	75.3	73.5	72.8
インドネシアルピア	(IDR)	13577 ～ 16625	14175	14880	14500	15200	14650	14800
韓国ウォン	(KRW)	1150.60 ～ 1293.95	1204.65	1230	1230	1210	1200	1190
マレーシアリング	(MYR)	4.0520 ～ 4.4490	4.2782	4.42	4.40	4.35	4.30	4.25
フィリピンペソ	(PHP)	50.256 ～ 51.959	50.015	50.8	50.5	50.9	50.6	50.4
シンガポールドル	(SGD)	1.3446 ～ 1.4647	1.3910	1.43	1.40	1.43	1.39	1.37
台湾ドル	(TWD)	29.714 ～ 30.533	29.525	30.0	30.0	29.9	29.8	29.7
タイバーツ	(THB)	29.54 ～ 33.19	30.88	32.6	32.1	31.5	31.7	31.4
ベトナムドン	(VND)	23170 ～ 23637	23198	23600	23360	23200	23300	23200
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	60.8833 ～ 82.8729	69.0558	70.00	72.00	70.00	67.00	69.00
南アフリカランド	(ZAR)	13.9326 ～ 19.3508	17.1522	17.50	17.00	16.50	16.00	16.50
トルコリラ	(TRY)	5.8391 ～ 7.2690	6.8551	7.10	7.30	7.50	7.20	7.40
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	4.0049 ～ 5.9700	5.3624	5.40	5.30	5.35	5.30	5.25
メキシコペソ	(MXN)	18.5237 ～ 25.7849	22.6832	22.00	21.50	22.00	21.50	21.00
対円								
エマーGINGアジア								
中国人民元	(CNY)	14.567 ～ 16.108	15.142	15.07	15.04	14.89	14.86	14.82
香港ドル	(HKD)	13.020 ～ 14.422	13.828	13.79	13.62	13.46	13.32	13.17
インドルピー	(INR)	1.367 ～ 1.566	1.416	1.40	1.42	1.39	1.41	1.41
インドネシアルピア	(100IDR)	0.642 ～ 0.817	0.754	0.719	0.731	0.691	0.710	0.696
韓国ウォン	(100KRW)	8.408 ～ 9.660	8.914	8.70	8.62	8.68	8.67	8.66
マレーシアリング	(MYR)	24.148 ～ 27.278	25.055	24.21	24.09	24.14	24.19	24.24
フィリピンペソ	(PHP)	2.006 ～ 2.213	2.143	2.11	2.10	2.06	2.06	2.04
シンガポールドル	(SGD)	73.18 ～ 81.92	77.05	74.83	75.71	73.43	74.82	75.18
台湾ドル	(TWD)	3.364 ～ 3.708	3.630	3.57	3.53	3.51	3.49	3.47
タイバーツ	(THB)	3.215 ～ 3.729	3.471	3.28	3.30	3.33	3.28	3.28
ベトナムドン	(100VND)	0.4364 ～ 0.4829	0.4620	0.45	0.45	0.45	0.45	0.44
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.306 ～ 1.804	1.552	1.53	1.47	1.50	1.55	1.49
南アフリカランド	(ZAR)	5.610 ～ 7.821	6.250	6.11	6.24	6.36	6.50	6.24
トルコリラ	(TRY)	14.635 ～ 18.875	15.632	15.07	14.52	14.00	14.44	13.92
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	17.901 ～ 27.687	19.987	19.81	20.00	19.63	19.62	19.62
メキシコペソ	(MXN)	4.226 ～ 6.013	4.725	4.86	4.93	4.77	4.84	4.90

注: 1. 実績の欄は 2020 年 5 月 29 日まで。SPOT は 6 月 26 日の 8 時 20 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。